土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　　査　　名　後山川通常砂防事業に伴う業務委託

事　業　・　工　事　名

調査目的及び調査対象　砂防　構造物基礎

ボーリング名	Bor-6	調査位置	広島県福山市鞆町後地	北　緯	34° 22' 09.0278"
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	令和2年 3月23日～ 令和2年 4月 3日	東　経	133° 22' 38.3116"
調査業者名		主任技師		現場代理人	コア鑑定者 / ボーリング責任者
孔口標高	TP 67.97m	角度	180° 上 90° 下 0° 0°	方向	0°北 0° 270° 西 90° 東 180° 南
総削孔長	5.00m	地盤勾配	10° 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機：東邦地下工機　D-0 エンジン：ヤンマー　NFD13　ポンプ：東邦地下工機　BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位／測定月日
1				礫混り砂質土		淡褐灰	rd4		未固結の礫混り砂質土。 径5～80mm前後の亜角礫主体。 砂分は細粒砂優勢。 深度0.8～1.0m間、流紋岩塊。 外周を残す硬質な片状コア。 深度1.0mより全漏水する。	
2	65.97	2.00		流紋岩		褐灰			流紋岩の風化部。 未固結の礫状コアで採取。 深度方向へ次第に固結する。	
3	64.97	3.00		流紋岩		灰			流紋岩(軟岩～中硬岩)。 コア長5～25cm前後の短柱状コア主体で採取。 亀裂間に土砂を挟む。 岩片硬質を呈するが、潜在亀裂が発達する。 深度3.8m付近、角礫状。	
4										
5	62.97	5.00								
6										
7										
8										
9										
10										

標準貫入試験

深度―N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度 (m)	100mm毎の打撃回数 0～100	100～200	200～300	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量	自沈時の貫入量
39	1.15	11	13	15	39		
	1.45				300		
19	2.15	6	6	7	19		
	2.45				300		
50以上	3.05	50			50	80	
	3.13	80			80		
50以上	4.15	17	20	13	50	220	
	4.37			20	220		
50以上	5.00	貫入不能			50	0	
					0		

試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	削孔月日
				3/26
				4/1
				4/2